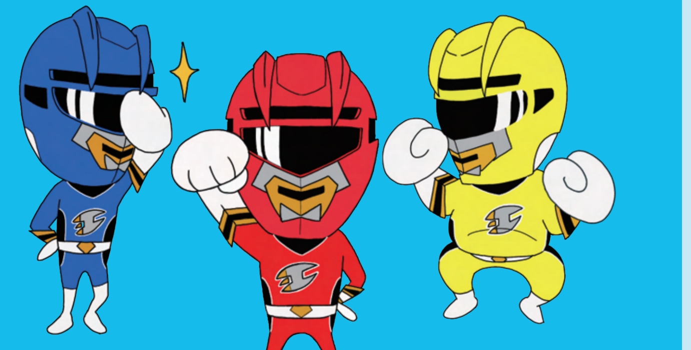
KONANKU RYOKAWA
GUIDE MAP

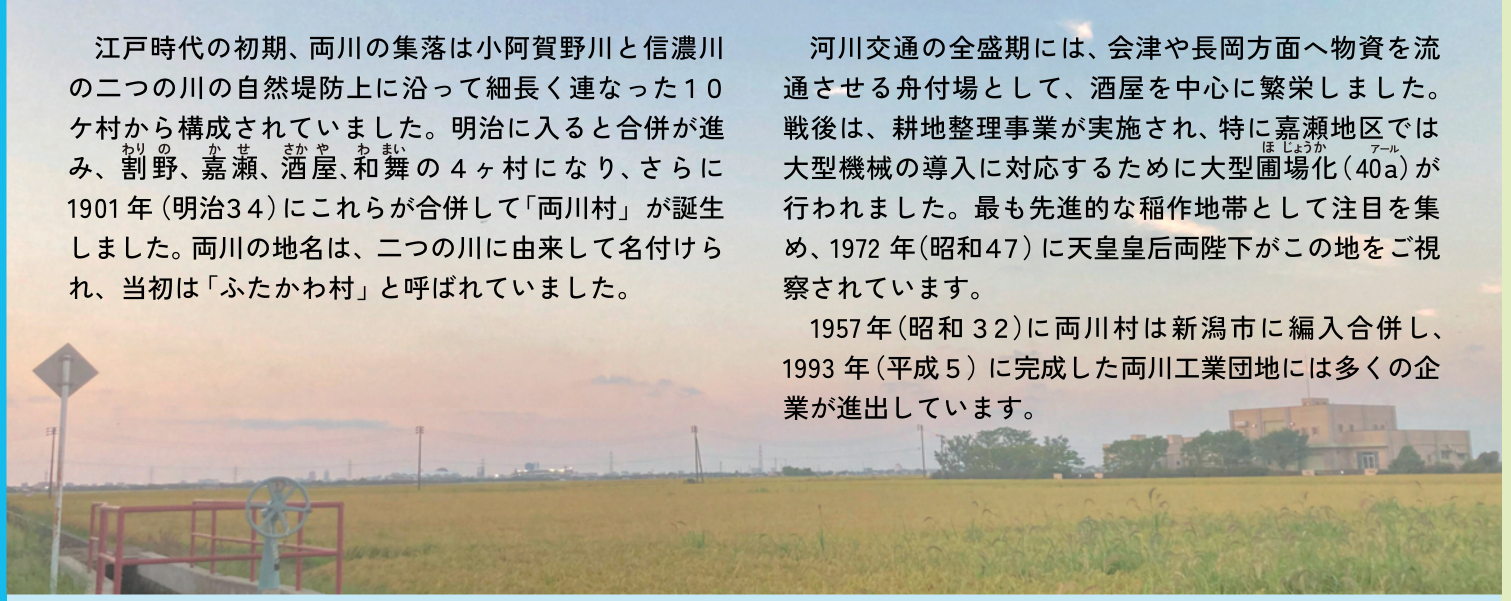
両川まち歩きMAP



両川地区案内手帳

江南区

両川の歴史



江戸時代の初期、両川の集落は小阿賀野川と信濃川の二つの川の自然堤防上に沿って細長く連なった10ケ村から構成されていました。明治に入ると合併が進み、割野、嘉瀬、酒屋、和舞の４ヶ村になり、さらに1901年（明治34）にこれらが合併して「両川村」が誕生しました。両川の地名は、二つの川に由来して名付けられ、当初は「ふたかわ村」と呼ばれていました。

河川交通の全盛期には、会津や長岡方面へ物資を流通させる舟付場として、酒屋を中心に繁栄しました。戦後は、耕地整理事業が実施され、特に嘉瀬地区では大型機械の導入に対応するために大型圃場化（40a）が行われました。最も先進的な稲作地帯として注目を集め、1972年（昭和47）に天皇皇后両陛下がこの地をご視察されています。

1957年（昭和32）に両川村は新潟市に編入合併し、1993年（平成５）に完成した両川工業団地には多くの企業が進出しています。

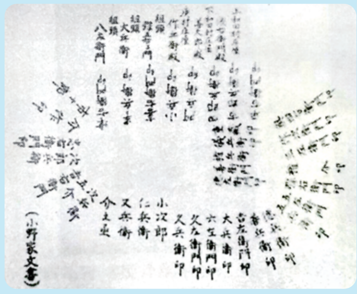
水との闘い

和田切れと村方騒動

両川は、1922年（大正11）に大河津分水が通水するまで、水との闘いの連続でした。特に、二つの川の合流点に近い和田地区で水害が多く発生しています。大規模なものは1698年（元禄11）の「上和田切れ」、1707年（宝永４）の「和田・割野切れ」、1757年（宝暦７）の「和田切れ」が挙げられます。

「上和田切れ」で被災した村々では３年間収穫がなくなり、年貢を治めることができなくなった農民は、その苦しい状況を代官へ伝えるべく、「連判状」をつくり庄屋にお願いしました。はじめは農民と代官の争いでしたが、庄屋が年貢の不公平な割り付けなどを行っていたことから、農民対庄屋の問題へと変わり、1706年（宝永３）、上和田村の農民らが、庄屋の「罷免願い」を代官に提出する「村方騒動」が起こりました。

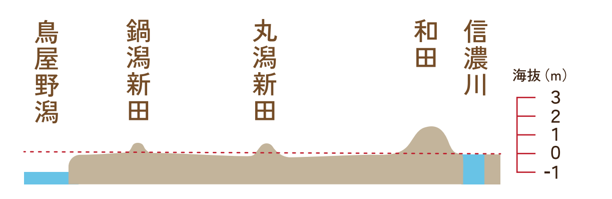
両川は、このような水害をきっかけとした村方騒動の史料が多く残されている地域です。



傘連判状

室町時代から江戸時代にかけて、一揆などで用いられた円環状の署名形式。多数の者が一致団結して約束を誓うとき、円を書き、そのまわりに放射状に署名することで、その首謀者をわからなくするための工夫でした。

水源と土地の高低差



会津藩酒屋陣屋

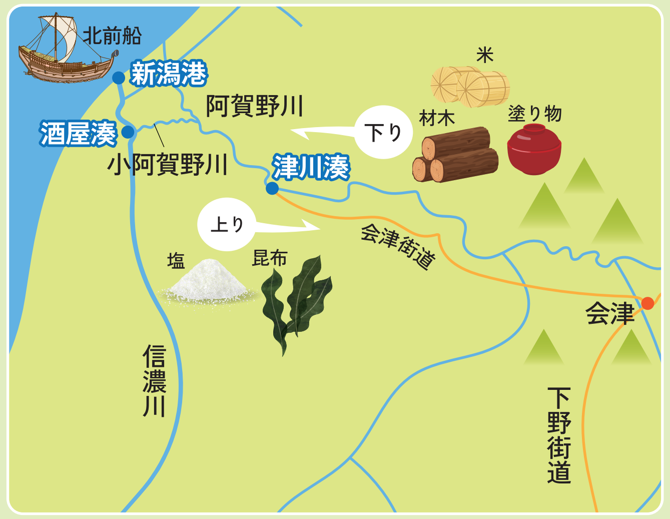
酒屋は重要な川湊

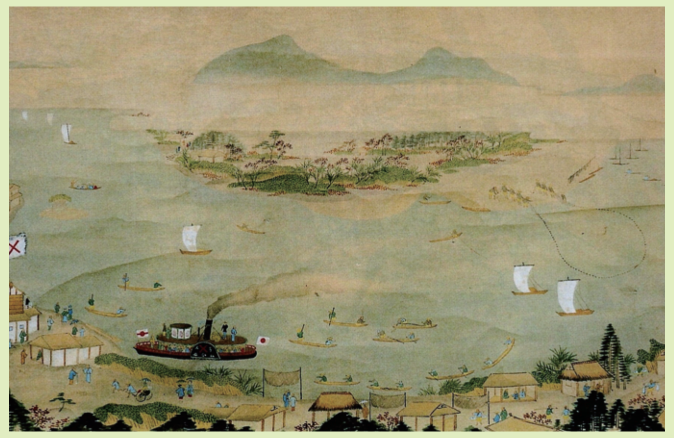
酒屋は、二つの川の合流点にあり、江戸時代初期には舟付場があったという記録が残っています。川湊としての性格を強く打ち出すのは、1865年（慶応元）に会津藩領になってからといわれています。

山に囲まれた会津藩は、以前から流通基地として、また幕末期には軍事面からも外港を求めており、1867年（慶応３）には、水原（阿賀野市）にあった「陣屋」（兵士が駐屯・滞在している場所）を酒屋に移しました。

当時は川と海が流通の要で、北前船で運ばれてきた塩などの物資を新潟港から川舟に移し、信濃川の上流の酒屋湊、そこから小阿賀野川を上り阿賀野川に出て、上流の津川湊まで運び、津川からは陸路で会津方面へ輸送しました。また、会津からは逆に川を下りお米や特産物を新潟方面まで運びました。戊辰戦争の際には、鉄砲などを運んだと言われています。山に囲まれた会津藩にとって、川湊をもった酒屋は重要な地でした。

川と交通



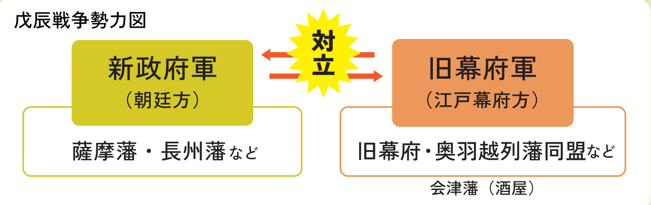


明治初期の信濃川の舟付場と鮭漁の様子（酒屋）

戊辰戦争と酒屋陣屋

戊辰戦争は、1868年（慶応４）１月から起こった旧幕府軍と新政府軍との戦いの総称で、新政府軍が勝った戦いです。同年２月には、酒屋に旧幕府方の会津、長岡、村松、新発田、村上の５つの藩の代表が集まり、８日間にわたって会議が行われました。世に「酒屋会議」として知られています。この会議は、新潟のまちを中心として、経済・軍事の拠点を会津藩の下に位置付けることを決めたもので「奥羽越列藩同盟」結成の伏線になったとされています。

しかし８月、酒屋陣屋は、俵柳村（現在の江南区曽野木地区）の「小林政司」が率いる「金革隊（勤王農民義勇兵）」に攻撃され炎上しました。会津藩による酒屋統治は４年に満たない短い期間でしたが、酒屋と会津・津川との交流は、阿賀・小阿賀の２つの川を通じて密接になり、明治以降の酒屋の繁栄の基礎がつくられたといわれています。



戊辰戦争勢力図

新政府軍（朝廷方）
薩摩藩・長州藩など

対立

旧幕府軍（江戸幕府方）
旧幕府・奥羽越列藩同盟など
会津藩（酒屋）

Special thanks!

発行に際し、ご協力いただいた
両川地区の皆さまに、
心より感謝申し上げます！！

発行・制作元（令和６年３月発行）
発　　行：両川地区コミュニティ協議会
新潟市江南区自治協議会まちづくり部会
協　　力：AGNET 新潟
ユメレンジャー製作委員会
デザイン：lulu design
参考文献：新潟市合併市町村の歴史
両川村のあゆみ
両川郷土読本
刀剣美術 平成１９年３月号
新潟市民文化遺産ガイドブック

両川の文化・芸能

酒屋太々神楽

酒屋の太々神楽（里神楽）は、いわゆる出雲流神楽と言われており、古事記や日本書紀に登場する神話を題材として、仮面をつけ、台詞を使わず演じられます。年２回の酒屋祭りで、春は五穀豊穣を祈り、秋は豊作を神々に感謝するために奉納されます。優雅な稚児舞が６舞、格調高い大人舞が６舞で構成されています。この神楽は八坂社・諏訪社合殿に伝わる神楽で、西蒲原郡の曽根の玉木家から、1872年（明治５）頃に伝えられました。

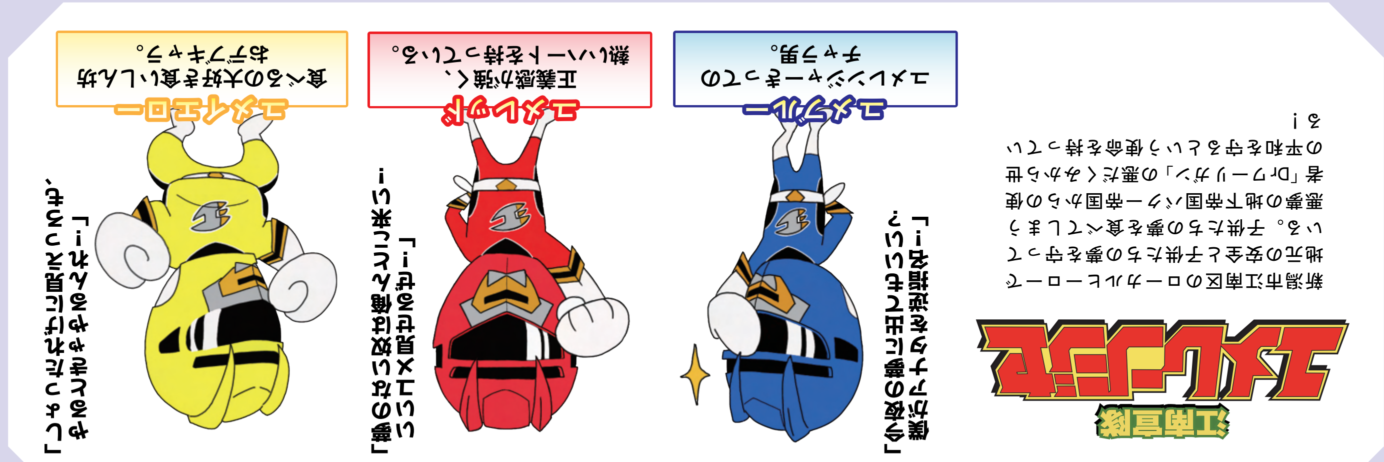
嘉瀬神楽

嘉瀬の神明社・諏訪社合殿の秋祭りで奉納されている神楽です。獅子神楽、団七、花笠踊りの３種類あり、そのうち獅子神楽は、獅子頭をご神体として、祈祷やお祓いを行います。横笛や太鼓を使用した伝統あるお囃子に合わせ、獅子が悪魔祓いの舞を踊ります。

お花人形

宝暦年間（1751年～1764年）、割野村と嘉瀬村の境に、「論田」という耕作不可能な悪田がありました。しかし論田は一般の田と同じように年貢がとられてしまうため、両村の間で押し付けあいが発生しました。割野村はこのことを代官所に訴えましたが、うやむやにされたため、江戸の北町奉行所へ上訴し、訴訟に勝ちました。　帰村後、氏神の諏訪社に報告するため、江戸の見聞記、道中記などを藁人形にして、拝殿の両脇に展示し、祭礼のお花として奉納しました。

ちょっと待ったぁぁぁ!!! 俺たちを忘れちゃ困るぜ!!!!!


江南宣隊
ユメレンジャー
「今夜の夢に出てもいい？僕がアナタを逆指名！」
「夢のない奴は俺んとこ来い！いいユメ見せるぜ！」
「しょったれげに見えっろも、やるときゃやるんれ！」

新潟市江南区のローカルヒーローで地元の安全と子供たちの夢を守っている。子供たちの夢を食べてしまう悪夢の地下帝国バクー帝国からの使者「Drワーリガン」の悪だくみから世の平和を守るという使命を持っている！

ユメブルー
ユメレンジャーきってのチャラ男。

ユメレッド
正義感が強く、熱いハートを持っている。

ユメイエロー
食べるの大好き食いしん坊おデブキャラ。

両川の特産物

両川自慢♪こんなにあるよ！

米

新潟の代表的な農産物といえばやはり米。堤防から鳥屋野潟方面に目を向けると、広大な水田風景が広がっています。豊かな水で育ったお米は、両川地区の宝です。

梨

江南区での梨栽培は、多種の梨を植えることで、８月中旬から12月末まで切れ間なく収穫できます。果汁たっぷりで糖度の高い梨です。

鮭

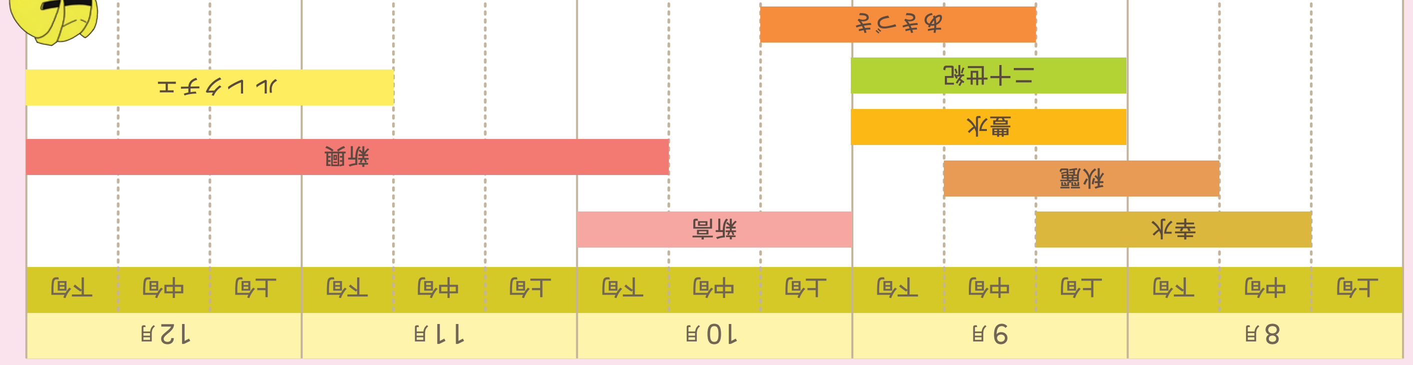
信濃川の最下流に位置する信濃川漁協で捕獲された鮭は、海を巡っている時に蓄えた栄養が豊富で、脂がのっていて美味しいと言われています。

10月下旬から
11月下旬にかけて、
漁が行われているぜ！

鮭のふ化について

１匹のメス鮭から、卵は3,000粒採取でき、そのうちふ化に使えるのは2,000~2,500粒です。約1,000匹のメス鮭から毎年採取し、稚魚として放流されるのはおよそ100～200万匹です。約４年間北の海で過ごし、そのうち母なる川へ帰ってくる（母川回帰）のはわずか2.5％～５％です。

梨の品種別スケジュール



幸水	甘さの中に程よい酸味があり、梨らしい爽やかな風味を感じられます。
秋麗	糖度が高く、緻密で柔らかい果肉には、みずみずしい果汁がたっぷり。人気急上昇中！
豊水	甘み、酸味もある梨。果汁もたっぷりで、ほんのり甘酸っぱい梨が好きな方におススメ。女性に人気！
二十世紀	青梨の甘さの中に爽やかな酸味があります。したたるほどの水分を含んでいて、みずみずしい食感。
あきづき	甘みが強く、酸味が少ない。たっぷりの果汁とシャキシャキとした食感で人気の梨。
新高	大きく、シャキシャキとした歯ごたえ、梨らしい芳醇な香り。甘い果汁が魅力。新潟県を代表する日本梨。
新興	貯蔵性あり。シャキシャキとした食感があり、果汁が多く程よい甘みに柔らかい酸味があります。
ル レクチエ	柔らかな甘みで独特の芳醇な香りをもち、口に入れるととろけるような舌触りが特徴の西洋なしです。

他にも新美月、
かおり、王秋とか
い～っぺこと
育ててるんさね～！
おれはあ～めぇがんが
好きらろも！

お出かけスポット

小阿賀野川河川公園 酒屋広場

遊具やミニバスケットボールのハーフコートを完備しており、バーベキューも可能です。（カセットコンロのみ使用可）公園の東側には釣り場が、西側にはカヌーもできるワンドがあり、秋には両川地区コミュニティ協議会によるカヌー体験会も行われます。

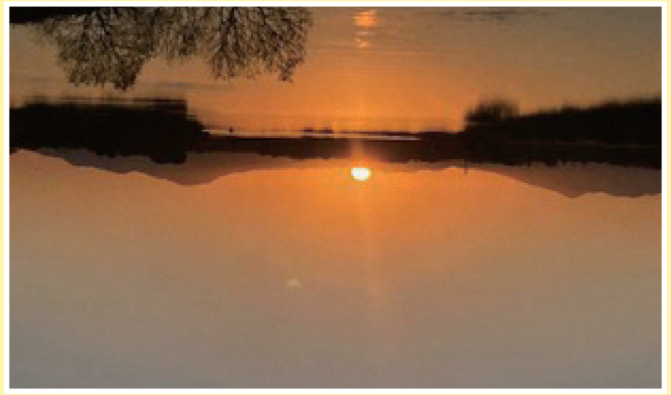
こあが公園

ブランコ、滑り台などの遊具のほか、ボール遊びや野球など自由に遊べる広場があります。小阿賀野川サイクリングロードに隣接しており、サイクリングの休憩にも最適です。

舞平公園

ブランコ、複合遊具、ターザンロープ、砂場などの遊具がある「ちびっこ広場」、どんぐりの実がたくさん実る「どんぐりの森」、のびのび走り回れる「芝生広場」などがあります。４月上旬には桜が公園全体に咲き誇り、お花見も楽しめます。隣に舞平清掃センター附属休憩所があります。

絶景★夕日スポット

信濃川の堤防上からは、弥彦山、角田山、信濃川という新潟を代表する自然の景色に、夕日が沈んでいく様子が見られます。特に 和田地区にある堤防の上から夕日を眺めると、建物などの人工物が一切なく、水辺の原風景を感じることができます。